

## 臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

### 【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 9-1

電話：03-3541-5151

担当者の所属・氏名：臨床研修部 岸尾 望

### 【研究責任者】

聖路加国際病院 臨床研修部 岸尾 望

### 【指導医】

聖路加国際病院 小児科 梅原 直

聖路加国際大学 公衆衛生大学院 大出 幸子

# 発熱した子どもを対象とした、プロカルシトニン と血液培養陽性率の関係に関する研究

## 1.研究の対象

2012年12月19日から2020年5月19日までに当院で血液培養を採取された生後28日～16歳未満の小児患者において、血液培養採取の前後1日以内に白血球数、CRP、プロカルシトニンを採取された入院・外来患者さん。

## 2.研究の目的・方法

菌血症は、成人と同様に小児においても重症な感染症の1つです。その診断は、血液培養(以下血培)により菌を検出し、菌種・薬剤感受性を明らかにすることがゴールドスタンダードとされています。

菌血症の診断においては、白血球(以下WBC)やC reactive protein(以下CRP)、プロカルシトニン(以下PCT)などといった炎症マーカーやバイタルサイン、全身状態など様々な要素を総合することが必要です。今回注目するPCTとは、細菌感染のマーカーとして近年重要視されている採血項目です。WBCやCRPと比較し、PCTは菌血症においてより鋭敏なマーカーとして期待されています。成人ではPCTと菌血症の関連に着目した検討は数多く行われておりますが、小児では成人ほど多くの検討が行われていないのが現状です。

今回、PCTと血液培養の陽性率の関係を調べることで、菌血症の状態をより正確に予測できるようになること、および治療法の選択をより適切に行うことを目的としております。

なお、この調査では通常保険診療以外の医療行為はなく、診療録(カルテ)に記載される内容についての調査のみとなります。調査期間は研究倫理審査委員会承認後～2021年3月31日までの予定です。

## 3.研究に用いる試料・情報の種類

主なデータ項目は以下となります。

《情報》カルテ番号、性別、年齢、入院・外来区分、WBC、CRP値、PCT値、血液培養結果、等

《試料》特になし